



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラク：イラン軍撤退に関するイラク外務省の要求 (12月31日付サバーハ紙)

2009年12月31日付イラクのサバーハ紙は、イラン軍がファッカ油田を占拠した件に関し、イラク外務省がイラン側にイラク領土内からの即時撤退を再度要求したことについて報じている。概要は下記の通り。

1. 12月30日、イラク外務省のハンムード次官は、在イラク・イラン大使館のフルトーン臨時代理大使と会談し、イラン軍が未だイラク領内から撤退していないことに対する抗議文を手交した。
2. 外務省の声明によれば、ハンムード次官は会談で、29日、イラク外務省がイラク・イラン国境確定のための特別委員会の会合を2009年1月に開催すると発表したことを指摘しつつ、両国関係を正常化させるため、また、国境確定に関する技術委員会のプロセスを促進するために、イラン軍のイラク国内からの速やかな撤退が必要であると述べた。
3. 12月18日、イラン軍がミーサーン県のファッカ油田を占拠し、イランの国旗を掲げたため両国関係が緊張し、その直後イラク外務省はイラン政府に対しイラン軍の撤退を求めるとともに、在イラン・イラク大使を召還した。その後もイラク外務省は、イラン軍撤退の説得のため、イラン側といくつかのレベルで接触を行い、イラン軍はイラン国旗を降ろし油田からは撤退したが、油田から50メートルのイラク領内にとどまっていた。